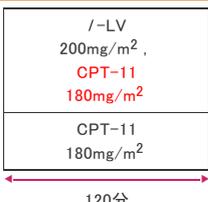
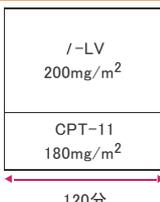


『がん診療レジデントマニュアル(第7版)』 正誤表

このたびは『がん診療レジデントマニュアル(第7版)』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書の第1刷(2016年10月15日発行)および第2刷(2017年1月15日発行)に以下の誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに訂正いたします。

2016年11月7日作成 2018年2月19日更新

第1刷(2016年10月15日発行)

訂正箇所	誤	正	更新年月日
014-015頁・図・014頁上方中央および15頁下方右側の色文字	<u>レンビマ</u>	レンパチニブ	2016/11/07
014-015頁・図・015頁下方右側の色文字	<u>レゴレフェニブ</u>	レゴラフェニブ	2016/11/07
014-015頁・図・015頁下方右寄りの色文字	<u>ソラフェニブ</u>	ソラフェニブ	2016/11/14
024頁・表「各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法の有効性」A群	(最初に右記を追加)	急性骨髄性白血病	2016/11/14
024頁・表「各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法の有効性」A群	非Hodgkinリンパ腫(中・悪性度)	非Hodgkinリンパ腫(中・高悪性度)	2016/12/05
024頁・表「各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法の有効性」B群	(最初に右記を追加)	乳がん	2016/11/14
024頁・表「各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法の有効性」B群	(最後に右記を追加)	悪性黒色腫	2016/11/14
024頁・表「各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法の有効性」C群	(最後に右記を追加)	前立腺がん	2016/11/14
071頁・表「HER2検査」	誤りがございました。	正しい表を欄外に示します。	2016/12/05
082頁・上から8行目(囲み内「TCH」)	6サイクル	6サイクル(トラスツズマブは1年間継続)	2016/12/05
122頁・下から2行目(囲み内)	L-OHP …… day 8	L-OHP …… day 1	2016/11/07
125頁・上から3行目(「Cap+L-OHP療法」囲み内)	L-OHP …… day 8	L-OHP …… day 1	2016/11/07
138頁・10 大腸がん・4) 全身化学療法・囲み部	(画像内赤枠部)【KRAS 野生型】 (画像内青枠部)【KRAS 変異型】 (画像内緑枠部) FOLFIRI±BV(or aflibercept)	【RAS 野生型】 【RAS 変異型】 FOLFIRI±BV(orラムシルマブ or aflibercept)	2018/02/19
	4) 全身化学療法  (欄外に拡大図を示します)		
142頁上・「FOLFIRI+BV療法」の図			2017/02/20
165頁・上から3行目	HPV-6・18型	HPV16・18型	2017/01/09
170頁・上から16行目	いまだ保険適用されていない	2016年5月に保険適用された	2016/12/05
249頁・上から6行目(「Hyper-CVAD/MA+ダサチニブ」囲み内)	DNR	ADR	2017/01/09
253頁・下から11行目(囲み内「VCAP療法」)	DNR	DXR	2016/11/07

訂正箇所	誤	正	更新年月日
253頁・下から8行目(囲み内「AMP療法」)	DNR	DXR	2016/11/07
278頁・下から4行目(「BR療法」囲み内)	3週ごと	4週ごと	2017/02/13

(第1刷・071頁・表 訂正)

● HER2検査 (HER2検査ガイド 乳癌編, 第4版)

IHC法(浸潤部)による判定の場合

判定	スコア	染色の基準
陽性	3+	>10%の腫瘍細胞*1に強い完全な全周性の膜染色が認められる
equivocal*2	2+	>10%の腫瘍細胞*1に不完全および/または弱/中程度の全周性の膜染色が認められる, または≤10%の腫瘍細胞*1に完全な全周性の膜染色が認められる
陰性	1+	>10%の腫瘍細胞*1にかすかな/かろうじて部分的な膜染色が認められる
	0	染色像が認められない, または≤10%の腫瘍細胞*1に不完全で, かすかな/かろうじて膜染色が認められる

ISH法による判定の場合

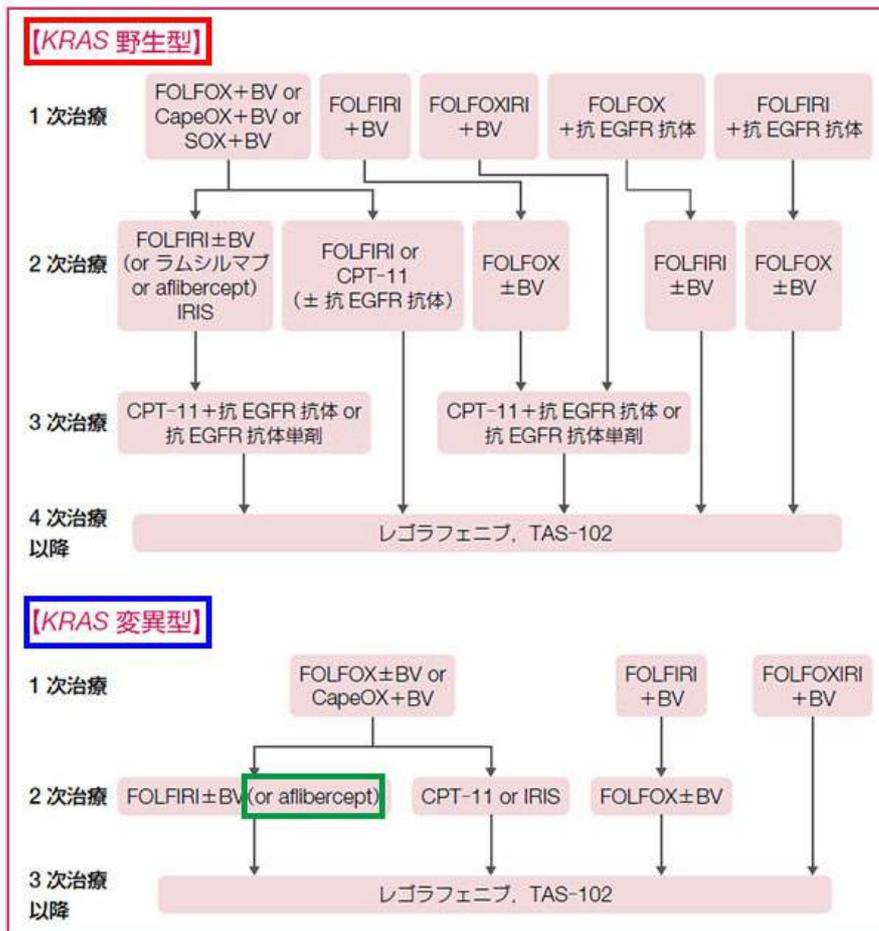
		1細胞あたりの平均HER2コピー数		
		<4.0シグナル	4.0≤かつ<6.0	6.0シグナル≤
デュアルプローブ HER2/CEP17 比	2.0≤	陽性		陽性
	<2.0	陰性	equivocal*2	

*1 低倍率の対物レンズで容易に評価でき, 均一および近接する浸潤細胞集団

*2 equivocalの場合はガイドラインに則った検査の追加が必要である。

(第1刷・138頁・10 大腸がん・4)全身化学療法・囲み部 訂正 拡大図)

4) 全身化学療法



株式会社 医学書院